

3. まちと水辺の未来像

和歌山の水辺のありかたを地域のステークホルダー、水辺でなにかをやりたい主体、まちづくりの主体、行政などが未来志向で和歌山の水辺の未来について語り合える会議等を開催した。これは、なるべく多くの人からわかやまの水辺のあり方をヒアリングするための試みでもあるが、同時に多くの人々に水辺に関心をもってもらい、和歌山の水辺の未来を多くの人々に「自分事」のように感じてもらうための取り組みである。

図表 3-1-1



結果として、毎回たくさんの方々の関心のある方々に参加していただき、水辺のまちづくりに対する関心を高める事ができた。

3.1. 水辺のありかたを議論する場：ミズベ会議、水辺シンポジウム等の概要

和歌山の水辺のあり方を開かれた場で議論するために、ミズベドリンクス、ミズベ会議、ミズベシンポジウムを開催した。開催概要は以下のとおり。

ミズベドリンクス：泉氏

3.1.1. ミズベドリンクス

(詳細は「資料編 2-1-1～ ミズベドリンクス」各資料参照)

- ・開催日時：2016年12月19日(月) 18:30～
- ・場所：BAR NO. 11 (パール・ヌメロオンセ)
- ・主な内容
 - ・トーク 「水都大阪のはじまりから裏話」 泉英明氏
 - ・7人の登壇者によるプレゼンテーション:「和歌山の水辺なう」

Powered by PechaKucha

- ・ゲストスピーカー：泉 英明氏／都市プランナー
- ・参加人数：73名



ミズベドリンクスの様子



3.1.2. 第1回ミズベ会議

(詳細は「資料編 2-2-1～ ミズベ会議 01」各資料参照)

- ・開催日時：2017年1月25日(水) 18:30～
- ・場所：みんなの学校2階
- ・主な内容
 - ・前回の振り返り
 - ・プレゼン「内川のこれまでの活動について」野井和重氏
 - ・講演「北浜テラスとバックキャストिंग的手法について」松本拓氏
 - ・ワークショップ「MZB48」水辺でやりたい事！
 - ・目的の説明
 - ・ワークショップセッション
 - 「わたしならこうする！ MZB48」:4チームに分かれてワークショップ
 - ・シェアタイム&まとめ
 - ・プレゼン「オープンイノベーションについて」岩本唯史氏
- ・ゲストスピーカー：松本拓氏／北浜水辺協議会理事
- ・参加人数：75名

第1回ミズベ会議WSの様子



3.1.3. 第2回ミズベ会議

(詳細は「資料編 2-3-1～ ミズベ会議 02」各資料参照)

- ・開催日時：2017年2月10日(金) 18:30～
- ・場所：みんなの学校2階
- ・主な内容
 - ・前回の振り返り
 - ・プレゼン「ここまで調べました」
 - ・講演「タクティカルアーバニズムとはなんだ？」泉山壘威氏(詳細は「資料編 3-2_ミズベ会議 02 泉山氏資料」参照)。
 - ・ワークショップ「使う人をイメージしてみよう」
 - ・自己紹介と「まとめ」の意見集約
 - ・「利用する人目線で考える」「市堀川をつかいこなすひとのイメージをしよう」：
:4チームに分かれてワークショップ
 - ・シェアタイム
- ・ゲストスピーカー：泉山壘威氏／一社パブリックプレイスパートナーズ代表
- ・参加人数：45名

第2回ミズベ会議WSの様子



3.1.4. ミズベシンポジウム

(詳細は「資料編 2-4-1～ ミズベシンポジウム」各資料参照)

- ・開催日時：2017年3月12日(日) 14:30～
- ・場所：東ぶらくり丁特設会場
- ・主な内容
 - ・前回の振り返り
 - ・講演「官民連携の最新動向とオープンイノベーション」辻田昌弘氏(詳細は「資料編 3-3_ミズベシンポジウム辻田氏資料」参照)。
 - ・「ミズベリングプロジェクトとかわまちづくりについて」田中里佳氏(詳細は「資料編 3-4_ミズベシンポジウム田中氏資料」参照)。
 - ・フィッシュボール「和歌山の水辺からはじまる素敵な未来について」
 - ・タスクフォースの発表
- ・ゲストスピーカー：
 - ・田中里佳氏／国土交通省水管理・国土保全局河川環境課課長補佐
 - ・辻田昌弘氏／東京大学公共政策大学院特任教授
- ・参加人数：62名
- ・同時開催：メガサップボード体験会(日本シティサップ協会)

ミズベシンポジウム



ミズベシンポジウム同時開催 ：メガサップボード体験会



3.2. 12のバリューと8つの支える仕組み

3回にわたって開催された水辺のワークショップ（水辺ドリンクス一回、水辺会議2回）でたくさんの方々からいただいた、和歌山の水辺の将来への思いを事務局でいったんひきとった上で分類整理すると、こんな価値観を大切にしたいという12のバリュー（価値）と、8つの支える仕組みに分けられた。それをひとつの絵にまとめると、根から茎、葉っぱで大きな花を咲かせるという「わかやまに咲く水辺の花」大作戦というひとつの絵にまとめられました。

「わかやまに咲く水辺の花」大作戦は、水辺の未来を大輪の花を将来咲かせる様子にたとえ、それを太い幹と立派な葉っぱと根っこで支えるというもの。

ひとつひとつの花びら自体は12のビジョン、茎と根っこは花の中心は、8つの支える仕組みを示しています。

「わかやまに咲く水辺の花」大作戦



3.2.1. 【12のバリュー】

ワークショップで多くの人々から聞かれた、きれいな川を実現したいという思い。

さわれる、およげる、魚釣りが楽しめる、流れを復活させたい、というさまざまなアクションを実現させながら、川を多様な主体で綺麗にする。きれいな川をつくりたいという価値観を共有した。

1 きれいな川、綺麗な水にしたい 豊かな自然環境にしたい

- さわれる
- およげる
- 魚釣りが楽しめる
- 流れがある



水辺が都市のなかにあらたに生まれる居場所になるのではないかという期待がワークショップで聞かれた。

椅子があってサンドイッチを持って食べられる。子供が安全に遊べたり、ちょっと立ち止まりたくなる場所になることが望ましいという価値観。

2 居場所作り

- 椅子
- サンドイッチもって座れる
- 子供が安全に遊べる
- 立ち止まりたくなる場所



市堀川を江戸時代のよ
うに船でたのしめる時代
に対する渴望がワークシ
ョップで明るみになりま
した。イベントとしての
船はすでに実現していま
すが、日常使いの船の交
通やレストラン船として
の魅力的な事業が創出で
けるといいなという価値
観。

3 クルーズができる楽しめる街にしたい

- イベントの船交通
- レストラン船などの日常利用
- 日常使いの船交通



和歌山の中心市街地の
なかで数少ない自然を感
じることができる場所
である水辺を、よりグリー
ンにしたいという思いが
ある人がたくさんいるこ
とが確認できた。

緑を水辺で増やしたい
という価値観。

4 緑の環境づくり

- 芝生の広場
- 野花
- 桜を植える
- 食べられるガーデン



まちなかの水辺でアクティビティをやりたい、やる環境がうまれたら楽しいに違いない、という意見が沢山聞かれた。

そのような体験ができるまち、という新たな価値を和歌山が獲得する未来。

5 水上アクティビティがある街にしたい

- SUP、カヌーなどの手漕ぎ
- スワンボート、貸しボート
- ウォーターポール
- ジェット、パワーボート、外洋へ



過去和歌山の水辺で繰り広げられた、河岸。納屋河岸を復活させたいという思いをもった方がいらっしゃいました。日常的に商空間として水辺が豊かだといいなと思う人々の価値観と統合して、過去あった河岸の現代的なもの（マルシェ）があったらいいなという価値観。

6 納屋河岸マルシェのにぎわいづくり

- 短期的なマルシェのもりあがり
- 日常的なマルシェ開催
- 周辺の商業にも好影響をあたえる



単に歩ける川でいい、ウォーキングしたくなるような環境を獲得するという価値観が聞かれました。そういう体験が日常的にあって、それを想像して維持するという価値観

7 歩ける水辺、走れる水辺。健康な水辺

- ・ 毎朝ウォーキング
- ・ ウォーキングをしたくなる環境整備
- ・ フットパスを町中にもつなげて整備
- ・ 日常でつかえる水辺の道



ひとびとがあつまり、なにかを共に体験できるような場所としての水辺。そのような華やかな場所であってほしい、という価値観。

8 いろんなイベントがおこなわれる水辺であってほしい。

- ・ 花火、映画鑑賞
- ・ フェス。食フェス
- ・ 水上パレード



水辺で食事がしたい、そんな場所がほしいという価値観。かつて川沿いに魅力的な飲食店が生まれ、今日でもその伝統を引き継ぐ店もある。水辺からあらたな和歌山の食文化をつくる、それが和歌山の新たな価値になる。

9 食文化が育まれる水辺

- フードカー
- 川床料理
- 牡蠣船
- フィンガーフード



お城とともに歩んできた市堀川。和歌山の歴史性を無視した水辺というよりは、その歴史とうまく繋がっているということを、価値観として大切にしたい。

10 和歌山レガシー

- 和歌山の歴史とつなげる
- 来歴に沿った水辺のあたらしい姿
- 和歌山城とつなげる



水辺のまちづくりをやるからといって、昼だけを考えるのではなく夜も大切にしたい、という価値観。すでに魅力的な飲食店が水辺にいくつかできてきたことをさらに発展させて、公共空間が歩きやすくセンシュアスになって、飲食店の魅力とともに、たくさんのひとを惹きつけるイメージ。

11 夜も楽しめる水辺

- 飲み屋、BAR
- 夜も明るい



子供や大人が水辺でさまざまな体験をできるまち、という価値観。教育を重視するまちに変貌する中心市街地に、体験を通して学べる場所が水辺に必要なのかもしれない。

12 学び



3.2.2. 【8つの支える仕組み】

ワークショップで出された意見をもとに、和歌山の水辺を魅力的にするために必要な仕組みを8つに分類しました。



- A) 栈橋、川の駅＝川との接点を維持する
 現在は川を体験できる場所は非常に限られている。川へ物理的に近づく場所を整備してその場所からさまざまな水上アクティビティへのアクセスを生む。そのため接点をまずつくって日常的に運用してみる。
- B) 中間組織
 行政に任せるのではなく、市民も主体的に水辺のまちづくりにコミットするために、中間的な役割が必要。PPP エージェント、トライセクターリーダー。
- C) 官民連携のフェスをおこなう
 単にイベントをこなすだけではなく、官民の連携をよりよい関係性を構築して信頼関係をつくるために、イベントを行う。イベントをともに成功させることによって、多様な主体間で関係性を構築することができる。
- D) 内川ファンドを含めた財源の確保
 水辺のまちづくりを推進していくためにも、財源が必要。官民で出し合ってファンド組成するなど、ともに作りあげていく考え方。

E) メディア、PR を推進

水辺の魅力を多様なひとびとに伝えるために、常に広報、メディア、PR を行い、その場所の価値を作り上げていくと共に、他社との関係性のなかから、物事を評価していく、という姿勢。

F) 民間不動産の活用推進も行う

水辺は公共空間だけではなく、民間不動産が面している部分もある。民間不動産が水辺に向けて魅力的になれば、和歌山の水辺も魅力的になる。そういう視点でリノベーションスクールの枠組みを生かして水辺の魅力創出をする。

G) 交通を考える

中心市街地の水辺へやってくるさまざまな人々の動線も考え、自動車交通、公共交通、歩行、自転車、水上交通などを含めて総合的にとらえて、水辺の魅力につなげる。

H) 協議会をつくる

これらのあたらしい取り組みを後押し、評価する地域の意思決定機関である協議会が必要である。

3.2.3. 【短期、中期、長期目標】

12のバリューと8つの支える仕組みの達成時期を短期、中期、長期にわけて、やりやすいところから実践すると共に、中長期的にどうすればいいのか考えながらすすめる必要がある。考える主体は、和歌山市ではなく、和歌山の水辺をどうにかしたいという関心のある方々すべて。

12のバリュー	短期	中期	長期
1 きれいな川、綺麗な水にしたい 豊かな自然環境にしたい	さわれる	魚釣りを楽しめる	およげる 流れがある
2 居場所作り	椅子、本、ピクニック	サンドイッチもって座れる	子供が安全に遊べる 立ち止まりたい場所
3 クルーズができる楽しめる街にしたい	イベントの船交通		レストラン船などの日常利用 日常使いの船交通
4 緑の環境づくり	芝生の広場 食べられるガーデン	花を植える 野花 食べられるガーデン	
5 水上アクティビティがある街にしたい	SUP、カヌーなどの手 遣き	スワンボート、渡し ボート	ウォーターポール ジェット、パワーボート、外洋 へ
6 納屋河岸マルシェのにぎわいづくり	定期的なマルシェの もりあがり	日常的なマルシェ開 催 周辺の商業にも好影 響をあたえる	
7 泳げる水辺、走れる水辺、健康な水辺	毎朝ウォーキング	ウォーキングをたく なる環境整備 ファットバスを町中にも つなげて整備	日常でつかえる水辺の通
8 いろんなイベントがおこなわれる水辺であってほしい、花火、映画鑑賞		フェス、食フェス 水上パレード	
9 食文化が育まれる水辺	フードカー フィンガーフード	川床	牡蠣船
10 和歌山レガシー	来歴に沿った水辺の あたらしい姿	来歴に沿った水辺 のあたらしい姿	和歌山の歴史とつなげる 来歴に沿った水辺のあたら しい姿 和歌山城とつなげる
11 夜も楽しめる水辺		夜も明るい	飲み屋、BAR
12 学べる水辺	学べる	学べる	学べる

7つの支える仕組みと考え方	短期	中期	長期
A 桝橋、川の駅=川との接点を維持する	水辺へのアクセスの ノード ここからさまざまなア クティビティに派生		
B 中間組織事務局提案			推進していくためのPPPの エージェント
C 官民連携のフェスをこなう	官民の連携のよい事 例を積み重ねる ひとのつながりを作 り続ける		
D 内川ファンドを含めた財源の確保			内川ファンドを含めた財源 の確保
E メディア、PRを推進	メディア、PRを推進		
F 民間不動産の活用推進もこなう	リノベーションスク ール		
G 交通を考える		レンタル自転車 駐車場 バス	
H 協議会をつくる	やってみなはれの 精神		

3.3. ペルソナ

第2回目のワークショップでは、参加者に和歌山の水辺を将来たのしむであろうペルソナを設定させて、そのひとが使う水辺のシーンを描いてもらうという試みを行った。

4つのペルソナが構想され、和歌山の水辺を楽しむひとびとの姿を想像して、どのような水辺であるべきかを逆算してかんがえるきっかけとした。また、第三回のワークショップで網羅できなかったペルソナ3つは事務局で追加した。

デートでともにすごせる水辺

ひろみと小泉はつきあいはじめて3ヶ月のカップルだ。もともとアウトドアが好きな彼らは、市内からちよっと足を伸ばすと、自然あふれるサイルドな環境がある和歌山を気に入っている。そんな彼らのもっぴらのデートは車でドライブなのだが、和歌山市内でピクニックをすることもあって、最近ではさまざまな水辺の体験ができることも気になっていた。

朝からカップルでSLIPの体験会に参加することで、お互いの知らない側面を知ることになった。また、和歌山を川からながめる機会をもった彼らは、自分たちの地元がいかに水辺とともに歩んできたまらなかに気がつく。今度はウォーターボールなんかもやってみたいと思う。校舎にもどると子供達が環境体験学習でわんさか集まっている。自分たちの子供の時代は川なんてあまり意識したことがなかったけど、最近の水辺はアフタースクールの場所になっていて、いきもの観察のイベントは大人気のようだ。

終わった後は、さつき田からみえた素敵なカフェに寄ってみる。カフェは川が眺められるおしゃれな雰囲気、二人の時間がゆったりと過ぎていく。だんだん暗くなっていくカフェで、お酒を飲みながらさらに二人の距離は近くなっていく。外国人の楽しげな雰囲気があるのもこのあたりの魅力だ。カフェからは船上結婚式をあげた別のカップルがかっこいい屋形船で会場に向かう様子がみられた。すこし静いを覚ますために外を歩いてみる。川沿いは涼しい風がながれてとても気持ちがいい。今日は夜市がでていて、賑わいがある。広場ではジャズが流れていて、思わず投げ銭をいれてしまう。

こんな街だから、家帰をもつと豊かに過ごしていけそうだ。このまま環境意識が高まっていくと本当に市内でも川でおまげるようになるのかもしれない。そんな五感で川を感じられる和歌山の魅力をポジティブに感じ、ふたりはふたりの和歌山で暮らす将来を感じながら歩いていた。



文化度が高い水辺で豊かな人生を模索する

徳川さん夫婦はリタイアをしても不動産のビジネスはまだやっけていて、生活の安定は所有する不動産の大家業にかかっている。ふだんからよく夫婦でまちを歩いている。最近の市廻田の水辺をあるくと、なんだかバリのサンマルタン運河にいった新婚旅行のことを思い出す。最近の和歌山はほんとうに豊かな環境を手に入れた。水辺でゆったりと時間を過ごせる広場とカフェ、歩きやすい動線、いろんなひとが行き来する川。水上のステージではコンサートが行われている。若者男女がめいめいの楽しみかたで過ごしている姿がみられる場所というのがいまの徳川さんたちにとって居心地がいい。週末には泳がせてくれる。孫たちもあそびやすい環境があることがなによりこのあたりに住むことのメリットだと感じている。しばらく歩くと、いつも決まってお気に入りのベンチで座る。妻はいつもこのあたりの野花の栽培ボランティアをやっていて、四季折々の植物と触れ合えるのも魅力的。都心に住むとなかなか庭をもつことができないが、水辺自体が庭みたいなものだ。外食のまちとして最近発展目覚ましい和歌山。オーガニックな食材は近くからそれぞれの飲食店オーナーがこだわって取り寄せているものだ。オーガニックな外食がブームになってきていて、最近はそのようなライフスタイルにあるが、郊外から都心回帰のブームがやってきた。自分が所有する不動産物件も最近空室がなくなってきた。このような好循環をうまくコーディネートしてきた地域の官民連携の取り組みに、今度出資してみようと思っている。



若者たちが和歌山に戻って来なくなる水辺

この4人が集まるのは久しぶりだ。小中でいっしょだったが、その後キャリアを重ねるごとにだんだん縁が遠くなっていった。和歌山にのこるのこらないということより、自分のキャリアを積み重ねることのほうが重要だった4人が、昨日は初顔会で久しぶりに会ったのだ。明日もいっしょに和歌山で遊んでみようぜ。そういったのは東京で働いているケンだった。和歌山で最近はやりの朝 SUP をやってみようと思っていたこともあった。4人は朝7:00から二日酔いのまま SUP 体験会に突入し、テンション高いまま SUP をする。タカシは調子に乗って最後の最後に川で落ちてしまうが、昔とはちがって水質はだいぶ良くなっているらしく、なにごともしなかったかのようにシャワーを浴びて朝ごはんを食べに行く。朝ごはんを途中で食べられるようになったのは最近のことらしい。子育てママたちも家事から解放されてまちなかで子供達を連れて朝ごはんを調達している。4人は最近はやりのサンドイッチを食べた。中身は紀伊水道でとれたサバの塩焼きだ。4人はドライブに行く予定にしていたのだが、SUPをやった疲れもあって、少し休みたかった。まちなかの芝生広場はライブがはじまったところだった。広場のはずれでハンモックを貸してくれるので、そこで4人で昔話をしているうちに寝てしまった。日が傾きかけて少し肌寒くなったころ、タカシは目を覚ます。すでにケンとれいこはいなくなっていて、きょうこを起す。ふたりで近くのカフェに入り夜のレストランを確認する。タカシは和歌山の食材をつかったマーベル和歌山キョウジの水辺の人気レストランを予約した。夜イルミネーションされた川沿いを歩きながら、こんな生活も悪くないなと感じて、和歌山での職探しを考え始めるタカシだった。



中心市街地に住むファミリー

和歌山の中心市街地に住む南の方家。最近中古のマンションを買って暮らしている。職場はなんばで南海で通っている。妻は地元ではたらく共働き家庭。かつては、郊外に一戸建てをもって住むのが和歌山の王道のライフスタイルだったが、最近は中心市街地に家を持つことも選択肢になってきている。なぜなら、和歌山の中心市街地ならではの体験アクティビティが提供され始めたからだ。

そのひとつが、子どもたちのアフタースクールサービスの拡充。なかでも、自然体験とセットになったアフタースクールが大人気。水遊びがあったり、ボートに乗せてくれたり、生き物の観察が身近になったり、自分で考える力が伸ばせるということで定評がある。共働き世代の両親たちの子育ての負担を減らしつつ、子供達に単学だけでなく自然体験などをとおして豊かな教育環境を提供できるのは、中心市街地が子供達にとって歩きやすくて便利だからこそ。

積極的に子供達には今後さまざまな経験をさせていきたいとおもっているが、学校教育の環境とか、そのあとのアフタースクールの環境とか、子どもの遊び場の環境を考えると市川の水辺があることがほんとうに重要なのだ。

妻は、近所で働いている。アフタースクールに通わせているので、長い時間働いている。最近では扶養控除とかなくなってきたので、パート以外で仕事をしやすい環境を考えていたら、中心市街地で住むことが選択肢に入ってきた。なおかつ、子供達の教育を考えて、中心市街地に住むことを選んだが、間違っていないかっと感じている。

外食がしやすい環境だということも、共働き家庭にとってはとても重要。ふだんの家事が楽になることもあるし、子供を預けながら二人でまったりゆったりさせる時間がこの水辺にあることも重要。



ここまでの案は、第三回のワークショップで参加者が構想しました。

川を綺麗にするソーシャルアクションに参加するマダム

川を綺麗にするごみひろいの活動は毎月第二土曜日、毎回50人ぐらいが参加している。市川川の衣橋付近の陸上頂と水上を流れるゴミをSUPを使ってゴミひろいをする班がいる。毎回、みんなおしゃべりを楽しみながら楽しくゴミひろいに参加していることがずっとつづいている理由。

住んでいるのはこの近く。川にはあまり関心なかったが、ここ最近市内の面白いイベントといえば、このあたりで開催されていることもあって、なんとなく気になってはいた。

ごみひろいのイベントは地元のニュースに掲載されたことがきっかけで参加するようになった。最初は自分だけで来ていたけど、最近では子供もいっしょに行くようになった。おしゃれなロゴとかウェブサイトが充実してきたのは、近所の男の子がデザイン会社をやっていて、片手間にやってくれているかららしい。

内川をきれいにしようという運動自体はもう50年以上続いているみたい。そういうおじさんと知り合いになるのも面白い。

最近では、川を綺麗にしてもらうのではなく綺麗にするのは自分たちだという認識がひろがり、そのソーシャルアクション自体が、和歌山の誇りになっている。和歌山市がシビックプライド？みたいな取り組みをはじめて、生き生き活動している人々がたくさんいる前だとPRをしはじめたことが大きい。海外からも視察が来る。

自分たちで未来をつくる、というのがゴミ拾いからはじまるのが面白い。最近では下水のあり方とかにも関心ができて、いろいろとひろがりはじめた。



川であそびながら学ぶ子どもたち

裕樹（小六）と小舞（さあや）（小四）は夏休みのあいだ、どのサマースクールにいかおうかと悩み、環境のことを学ぶことができるサマースクールを選んだ。

共働き世帯の川辺家は、夏休みに子どもたちがのびのびとすごせるサマースクールに通わせることにしている。遊びによりすぎたり、机にむかって勉強するだけのサマースクールもあるなか、遊びながら学べる体験型の学習ができるサマースクールはとても人気だ。

今日は、社鰯がいかに内川をきれいに行っているかを学ぶ授業だった。社鰯を護岸からごっそりとりてみると、そこにはエビ、イソギンチャク、はぜなどがたくさんいて、生物の楽園だった。それらの甲殻類をもとめてクロダイやスズキがいることもわかった。

とってきた社鰯をにごった海水にいれてみる実験では、1時間もすると水が透明になってびっくりした。

全国の社鰯養殖の種が和歌山からひろまったこととか、社鰯をたべさせる船が京橋にむかし浮かんでいたことなどを学習し、身近な市川川がふだん食べるものとして認識していた社鰯を通して、別の側面をもっていることを知った裕樹は、自由研究のテーマを決めたのだった。



川でセカンドキャリアを楽しむ

由規は、60歳で早期定年退職し、もっていた一般船舶免許を生かしたセカンドキャリアを楽しんでいる。

ずっと、船で釣りに行くことは趣味だった。あくまで自分だけの趣味で船に乗るという感覚だったが、和歌山の和船をつかった船の運行が始まって、自分も船頭をやって人を乗せてみたくなった。

あるとき船頭の募集があることを知り、これはやるしかないとはじめたのだ。船料は安い。仕事は休日が多い。平日は暇だ。

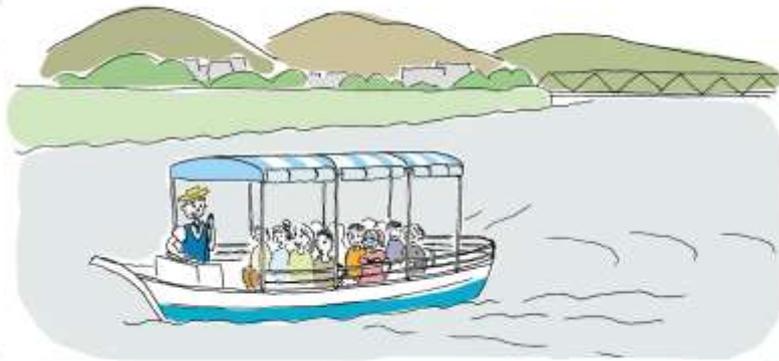
朝、弁当をもって船が泊まっている河口にいき、市駅の横橋まで乗ってくる。なかが4-5人いて、それぞれNPOのメンバーだ。

12人乗りの船を京橋から市駅を往復させるコースと、雑賀崎まで結ぶコース、和歌浦に行くコースがある。

お客さんは、和歌山市内を観光にきたひとが多い。和歌山城エリアと最近話題の酒ツーリズムをもとめた客が多い。黒潮市場があるポルトヨーロッパへいくコースは最近開拓中である。

だいたい、昼前から17:00ごろまでが仕事の時間。そのあとはだいたい飲み会だ。よく飲む人たちがあつまっている。ここは社交場になっていて、和歌山の川好き、水辺好きがよく集まって飲んでいる。

リタイアするまでこんな人生があるなんてまったく予想していなかった。

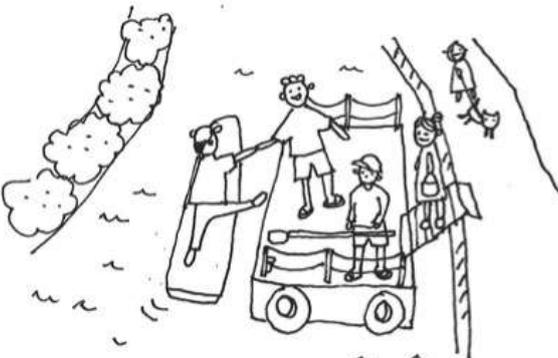


3.4. タスクフォース

具体的に社会実験を行うというフェーズになった時に、民間で社会実験に参加したいという人々はどれだけいて、どのようなことをやりたいのか。タスクフォースは、今後実際にどのようなチームでどのようなプロジェクトを推進したいかを関心層にヒアリングし、それぞれのチームごとに関心事を表明してもらったものです。このチームが実際にタスクフォースとして和歌山の水辺の課題解決や魅力創出のために属人的に推進して下さることと思います。

#わかやま水辺タスクフォース #1

#棧橋アクティビティ・タスクフォース

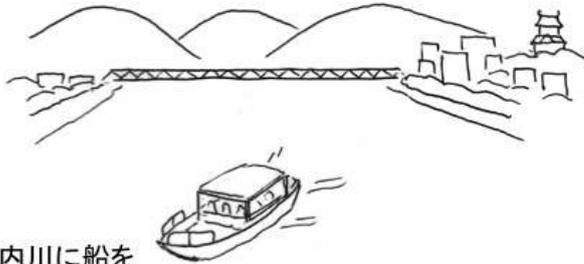


棧橋ができたときに
それをどうつかいこなすか、
ということを考えるタスクフォース

MEMBER
山本賢司さん(杏亭)
吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)
大江“オーウェン”亮輔



#船タスクフォース



内川に船を
日常的に浮かべさせるための
タスクフォース

MEMBER

- 宮原崇さん(ゲストハウスRICO)
- 豊田英三さん(ユタカ交通)
- 島英雄さん(株式会社メガチューブ)
- 源じろうさん
- 武内淳さん(水辺座)



船バル開催!

まちの飲食店のクーポンと船のクーポンを
くみあわせた、まちなかバルイベント!
船に乗って外食、飲みにでかけよう!



#川床タスクフォース

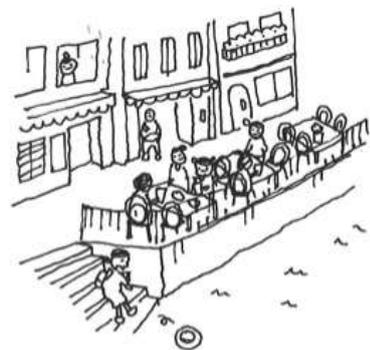


テラス席が川側に張り出すお店が増える

個人の飲食店の川側を
ゆたかな空間にして和歌山の
川の魅力を創出するタスクフォース

MEMBER

- 源じろうさん
- 武内淳さん(水辺座)
- 岩西 智宏さん(アトリエグリッド一級建築士事務所)
- 依岡善明さん(城善建設)



客席を水辺に置いた飲食店が立ち並ぶ

#PRタスクフォース

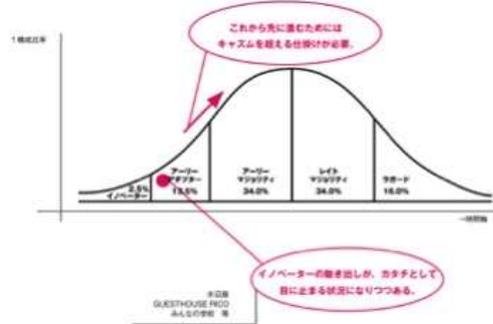
#わかやま水辺タスクフォース #4

水辺の価値を高めるために
どうメディア戦略を
主体的に考えるタスクフォース

SNS発信とキャラクターの創出

メディアの取材対象
「キャラクター」の
育成が重要!

まちづくりプロジェクトの進捗段階はどのあたりか?



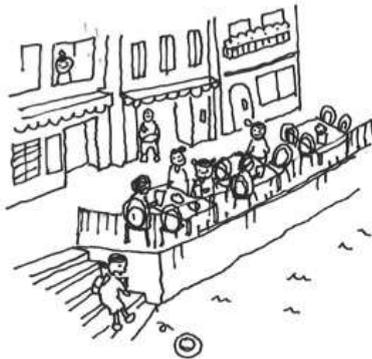
キャズムを超えよ！水辺のプロジェクト

MEMBER

下方 聖司さん
林 郁恵さん(まいぶれ)
岩本 唯史さん(水辺総研)

#河川占有タスクフォース

#わかやま水辺タスクフォース #5



河川の規制緩和を仕組み化して、ゆたかな
公共空間を創出するタスクフォース

MEMBER

小堀さん(GRASS)
源じろうさん(NUMERO 11)
岩本 唯史さん(水辺総研)
山本賢司さん(杏亭)
吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)



まちあるきで見つけた小さな宝 イスダスカ

#酒蔵タスクフォース

酒蔵の集客能力を最大化して、和歌山にあらたなコンテンツと風景を創出するための水辺の官民連携タスクフォース



MEMBER

- 吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)
- 三浦研祐さん(紀州まちづくり舎)
- 岩本 唯史さん(水辺総研)
- 南方 雅博さん(世界一統)

和歌山の水辺の酒蔵ツーリズム創出！



#水辺の食文化復活タスクフォース

水辺のまちで食べ歩きができるようにして、来街者が増え、滞在時間をふやす(伝説の牡蠣船を復活させる)タスクフォース



京橋の広場で、牡蠣フェス！

MEMBER

- 吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)
- 三浦研祐さん(紀州まちづくり舎)
- 岩本 唯史さん(水辺総研)



伝説の牡蠣船



フィンガーフードフェス



#遊覧船タスクフォース

#わかやま水辺タスクフォース #9

和歌山城の遊覧船のアイドルタイムをつかって、市堀川で遊覧船実験するタスクフォース

市堀川での観光客ニーズはあるのかどうか??



MEMBER

吉川誠人さん(紀州まちづくり舎)
野井 和重(内川をきれいにする会)



